

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190400226), 法人名 (株式会社 ケアスタッフ), 事業所名 (グループホームみちの木琴似 1F), 所在地 (札幌市西区琴似3条5丁目3-26), 自己評価作成日 (令和4年2月7日), 評価結果市町村受理日, 令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400226-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年3月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年ケアスタッフの2棟目のグループホームとして、地下鉄琴似駅から徒歩5分程の住宅街の中に開設。2つの町内会から声をかけていただき、両方に参加しており、コロナ以前にはお祭りに声をかけていただいたり、運営推進会議に複数の町内の方々が参加して下さるなど、良好な関係性が続いている。近くの公園や、近隣のお庭の桜や紅葉など、コロナ禍でも可能な限りお散歩の機会を設け、感染対策をしながらご近所との挨拶を交わす関係性が継続できている。徒歩圏内には系列の訪問介護事業所があり、研修会や行事などで連携を図っている。ご入居者様お一人おひとりの心に寄り添い、心地良い時間(とき)を過ごしていただくことを使命と心得、クレド(理念や行動指針の総称)に基づき、同じ方向を向いて支援することを目指している。事業所ごとにクレドに基づく年間事業計画を作成して実践に活かしており、また、様々なスタッフの成長に合わせた研修を企画・実施し、さらなる成長を目指している。スタッフは、ご入居者様のペースに合わせて寄り添うことで、出来る事・出来ない事を把握し、想いを汲み取るよう努め、気付きを共有し話し合いながら、その方らしく暮らしていただけるような実践につなげている。日々の暮らしの中で、生きがいややりがい結びつくように家事や好みの活動の機会を提供し、馴染みの話題で心からの笑顔を引き出し、季節のイベントやそれぞれの誕生日会では、飾り付けやごちそうメニュー、手作りのゲームや余興など、スタッフが楽しみながら企画・実践することで、たくさんの笑顔をいただいている。ご家族との連携により、生活歴や個性などを把握し、その方らしい暮らしを支えることを目指し、お看取りを視野に入れてご家族と共に行える支援を工夫している。コロナ禍で面会が難しい間も、ご本人の状況がわかるよう、みちの木だよりで日常の写真を出来るだけ多く添付け、毎月お送りしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄琴似駅から5分ほどの住宅街に位置し、周辺地域に溶け込んだ2階建て2ユニットの事業所である。この2年程、コロナ感染症対策の徹底に力を注ぎ、対人交流に制限を設けているが、近隣住宅はじめ、運営推進会議に協力を頂いている2つの町内会とは、今までと変わりなく良好な関係が継続している。利用者家族には安心して貰えるよう、毎月のお便りと細やかな連絡で対話を重ねている。事業所内では、家族に会えぬ利用者の身近な存在として、職員は、「寄り添い」を念頭に置き、日々の支援に取り組んでいる。医療面は、24時間連携の訪問診療と看護師の配置があり、健康支援の充実が図られている。利用者の終の住処は日常の先にあり、安楽な環境を作り、好きなものを口にするよう丁寧な看取りケアを行っている。また、一方では、生活の活性化や楽しみ事で笑顔を引き出し、正月には職員作成の「神社」でお参りし、夏祭りでは屋台メニューを味わい、ヨーヨー釣りを楽しんでいる。利用者に好評な手作りの食事も特筆の点である。職員は、常に利用者の心の声を聴き取りたいと、認知症患者と利用者個人の理解を深め、温かく優しい視点で想いの実現に何が出来るかを模索している。クレド(理念と行動指針)を礎に良質なスキルをもって、利用者の心と身伸びやかな一日を提供している事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe service outcomes and staff actions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有のため壁に貼り、毎年度クレド(理念や行動指針の総称)に基づいた事業計画を立てて取り組み、クレドの読み合わせや、会社の自己評価で理念に沿った振り返りを行っている。	法人事業所共通の理念は、基本的行動の規範として職員に浸透しており、当該自己評価の作成にあたり、一貫して理念に沿ったケアの振り返りを行っている。コロナ禍に在っては、利用者の心情を受けとめ、前年度からの事業計画を継続して、更に今年度、「寄り添い」をテーマに日々の実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方には、四季折々で庭を見せて頂いたり、日常的に挨拶を交わす関係性が出来ている。また、好意的にホームを受け入れて頂き、コロナ前の運営推進会議では、地域の2つの町内会から参加して下さい、良好な関係性を築いている。	現在、各種の交流活動は中断しているが、閲覧板や小学校通信で地域情報を得、資源回収に協力している。年末には関わり深い二つの町内会へ挨拶に伺い、関係継続を図っている。近隣とも散歩や除雪の際に言葉を交わしあっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在、コロナ禍のため、発信できていないが、以前は運営推進会議への参加を契機に、身内の方の支援の方法など、相談を受ける機会があった。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ前は、運営推進会議には地域の方、ご入居者様とご家族が参加して下さい、日常生活の写真をスライドで見えながらご意見を頂いていた。現在は、地域包括支援センターの方に議事録をお送りし、コメントを頂いて、ご家族へ発信している。	今年度は、2カ月毎に事業所内で開催し、懸案事項であるコロナ感染症対策を中心に、利用者や活動の現状、事業計画、身体拘束委員会等の内容を報告している。包括支援センター職員に意見や助言を求め運営に活かすとともに、議事録に記載し、全家族に周知している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困り事や確認事項など、必要に応じて問い合わせしたり、事業所の実情に即したアドバイスを頂いている。	コロナ感染症に関する内容などの確認や相談をし、適切な対策を講じている。介護保険認定更新や生活保護関連についても連携し、利用者の状況に応じて情報を共有し、安心・安全な生活構築につなげている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時と、年2回程度の研修では、資料や事例を用い、身体拘束をしないケアは勿論、不適切ケアが行われていないかの振り返り等もしている。	身体拘束や抑圧感の無いケアを実践している。指針の下、定期的委員会や勉強会を開催して全職員に周知を図り、基本的内容の理解を深めている。不適切と思われるケア事例を検証し、認識を高めている。日中は玄関は施錠せず、安全に且つ自由な生活環境を担保している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に関する研修会と一体的に研修を行ったり、ケアの中でスタッフ同士の気付きをもとに振り返り、ミーティング等で共有し、防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修の機会があれば参加し、参加者以外へも周知できるよう、ホーム内での資料回覧や勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は約2時間以上の時間をかけ、一つ一つ読み上げて、確認しながら説明している。その場だけではなく、後日でも質問頂いた際には丁寧な返答を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、ご本人の日常の様子や体調の変化、ホーム内の状況等、こまめに電話でお知らせしたり、月1回の『みちの木だより』で報告し、会話の中で想いや希望をくみ取る様にしている。ご家族の意向や希望は、社内会議にも上げて共有し、運営に反映させている。	面会は感染状況を見極め行っているが、重篤状況では、可能な限りの感染対策の上で柔軟に面会を支援している。毎月の通信に本人の写真と暮らしの様子、健康状態を詳細に記載している。電話、メール等でも連絡を取り、ケアに変更があれば家族に相談し、より良い方向性を見出し、実現できるよう努力している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回、代表者と面談の機会があり、直接話す場がある。また、管理者やユニットリーダーは、面談に限らず日頃の業務の中で出てくる意見や提案に耳を傾け、業務改善に取り入れたり、社内会議に上げて共有に努めている。	管理者と職員は共に理念に沿ったケア姿勢を身に付け、積極的に意見や提案を出し合い、適切なケアの提供やその為の業務改善を進めている。都度、法人代表者や役職者の来訪があり、現状の把握や面談を通して職員個々の労をねぎらい、より良い職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、社内会議やリーダーとの面談で、働くスタッフの状況を把握した上で、個別の面談時に声掛けをしている。実務者研修や介護福祉士の受験を希望するスタッフには支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	12と同様、社内会議やリーダーとの面談で、スタッフの状況や成長を把握し、研修を企画している。また、一人一人の自己評価を行っており、結果をもとに、そのスタッフに合わせたトレーニングを計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流は難しいものの、民協や日本認知症グループホーム協会等に所属し、情報交換を行い、サービスの質向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、ご本人・ご家族と面談し、ご本人・ご家族が何を求めているか傾聴し、ケアマネジャーや相談員等の情報も併せて、困り事や希望を聞き取る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様。ご入居前後は、出来るだけ密に連絡・報告をして、要望に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とは、現在のご本人の状態の共有を図り、要望に耳を傾けながら、必要な支援の見極めに努め、ご家族に協力を頂きながらともに支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事をして頂いたり、一緒に行っている。行事やレクリエーションは、ご入居者様の希望をくみ取り、アイデアを出し合っ、共に楽しめるものを企画・実践している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有に努め、ご家族が介護に関われるような働きかけを行いながら、協力を仰いでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達やご家族との電話を繋いだり、はがきのやり取りを支援している。コロナ禍で馴染みの場所に行けない状況の為、ホーム内で植物や花を飾る等、工夫をしている。	面会に制限がある現状だが、親しい人や大切な人たちとの関係性が途切れないよう電話や手紙を取次ぎ、利用者自筆のカードを送ることを支援している。一緒に生活する中で一人ひとりの昔話に耳を傾け、縁起物の藪玉作りや懐かしい遊戯のおはじきなども活動の一部に取り入れ楽しい時間を工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが、それぞれに声掛けをしたり、気の合う方同士が同席できるような座席配置を工夫し、互いに支え合える関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族や親せき、ご近所の方からの入居相談が寄せられることが多くある。ただ、お看取りまでの対応をさせていただくことが多く、その後の支援等に至る事例はなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に一回のモニタリングはスタッフ全員で行っている。スタッフ一人ひとりが、普段の生活の中で、今ご本人がどうしたいのかを大切にしたい気持ちを汲み取り、変化があれば、その都度スタッフ間で話し合う機会を設けている。	一緒に食事作業などをしながら、さりげなく問いかけ、意向を表しやすい場面を作っている。関わりの中で言葉や表情、全体からも推察し、また入居時の基本情報や家族から情報も伺い、本人の心の声が汲み取れるよう、多面的な視点で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー等からの資料や、ご本人、ご家族からの情報の中で共有し、わからないことは電話などで問い合わせ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人ひとりが寄り添い、傾聴した際に気付いた情報を記録にすることで把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度、また、特変のある時はモニタリングをスタッフ全員で行い、担当者がまとめている。ご家族とは、状況報告や相談の際に電話等でお話し、意向を把握し、プランに反映させている。	定期または状況に応じて新たな計画作成に取り組み、見直し時のモニタリングは、日々の関わりの細部に渡って全職員の視点を生かし、個別記録も参考に、担当職員が計画を立案している。ケア上の現状課題や本人・家族の意向を盛り込み、個別の計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを行った際の気付きは業務日誌や個人記録に記録し共有している。スタッフ間で話し合いながら実践し、次のプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で、その方の残存能力や体調等も変わるため、臨機応変に対応している。特にコロナ禍では、その時の状況に応じた対応を工夫し、可能な範囲で散歩や面会などを企画・実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍も、近隣の庭の花や紅葉を見せてもらい、ご挨拶を交わすことが出来た。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時は、ご本人の受診状況を把握した上で、ホームの提携病院で24時間の連携が可能であることを説明し、現在は皆さんが提携病院に変更されている。	医療機関は、利用者・家族の意向を尊重し納得の得た受診先であり、現在は隔週の訪問診療を利用し、看護師職員が配置されている。全利用者の状態は主治医に週1回報告し、受診情報等は医療連携ファイルにより関係者間で共有し、些細な変化にも迅速な対応できる体制である。専門科外来受診は、家族に協力頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変時、週1回の報告時にホームの看護師に相談し、必要時は看護師から提携病院へ相談するなど、連携し、協働を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病棟へホームの書式で介護添書を作成し、送っている。ご家族の了承を得て、退院に向けての相談は、病院の担当者と直接行い、調整を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティングや看取りについての研修を行い、方向性を一つにして対応に努めている。折に触れ、ご家族と主治医、ホームとの話し合いの場を設けている。	利用者の多くは、終の棲家を意識して入居に至っており、契約の際に重度化や看取りの支援を説明している。重度化の過程で都度話し合いを持ち、本人と家族が望む終末の支援体制を構築している。管理者は状態に応じた指示書を作成し、全職員統一の丁寧なケアに臨んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制、急変時のポイントなどをまとめたものを、目につきやすい場所に掲げ、いざという時に手にして動ける様にしている。訓練は未実施であり、必要性を感じている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、地域の方にも自動で連絡網が回るようになっている。寝たきりの方の搬送訓練などを行い、いざという時の動きをシミュレーションしている。また、災害時に備え、すぐに食べられる食品や簡易ストープなどを準備している。	年2回ユニット毎に夜間想定 of 自主避難訓練を行っている。利用者の状態に応じた搬送方法を検討、実践し、事後の振り返りを通して次回の課題に挙げている。近隣3軒に緊急時自動連絡網の協力を得ており、非常用備蓄品や停電用防寒機器等を準備している。	感染状況を見極めつつ、地震や浸水などの自然災害を想定し、非常時に速やかに対応できるよう実践的な訓練やシミュレーションの取り組みを期待している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという事を忘れず、お一人お一人の人格と生きて来られた生い立ちを、尊重し自己肯定感を高められるような声かけと対応に努めている。	一人ひとりの人格の尊重を支援の基本に置き、利用者一人ひとりに関わっている。入浴時の同性介助の希望に対応し、「さん」付けで名前を呼び、申し送りや記録等ではアルファベットを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の想いを大切に、意向を確認して声をかけ、迷われたり訴えが出来ない方には選択肢を提示する等、ご本人の希望を引き出すよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の今その時の声に耳を傾け、表情や仕草に配慮し、職員の押し付けにならないよう、その方に合ったペースで支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備、朝の身支度など、イベントに合わせて、その方らしさと、季節や気候にも合わせて、ご本人に選んで頂けるような声掛けをしながら支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様と食事の盛り付け等出来そうなことを一緒に行ったり、得意な片付けを手伝って頂いている。お一人おひとりの好きな食べ物を聞きながら、彩りやバランス、季節を考えたメニューを提供している。	食を通じた家庭の温もりや満足感を大切に、利用者と共に食事を作っている。豊富な食材で手作り料理を基本に利用者の好みを反映し、時には漬物作りをしたり、生寿司の取り寄せ、焼きそばやたこ焼きなど縁日メニューを楽しんだり、利用者にて好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないよう、その方に合った形態や栄養のバランスを工夫した食事を提供している。水分が進まない方には、好みの飲み物を提供し、声掛けして促し、摂取量を記録し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや、介助で、その方に合ったオーラル用品でのケアを行っている。歯のぐらつき、義歯の不備、過度な口臭等、特変時には、歯科衛生士に相談したり、往診をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けと、尿意、便意のある方は、その方の様子やサインに応じてトイレに誘導。ない方は、その方の排泄パターンを把握した上で誘導し、出来る事を探りながら、その方に合わせた支援や声掛けを行っている。	排泄面からの尊厳を重視し、出来る力を支え、立位保持が難しい場合も介助の仕方を工夫し、トイレ排泄を支援している。布下着の着用に取り組み、失禁状態では一気に紙パンツに移行せず、尿取りパンツで様子を見、使用を検討している。排便対策は水分や食事、看護師の指示を踏まえ、不安や苦痛、負担感が和らげるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションで適度な運動を取り入れて、食物繊維を多めに摂れるようなバランス良い食事を工夫し、こまめな水分補給と声掛けに努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様には、分かり易い言葉で、入浴により体に良い効果がある事をお伝えしている。拒否がある際は無理をせず時間をおいての声かけ、スタッフを代えての対応、別日に改めるなど、タイミングや気分を見計らって対応している。	利用者個々に2、3日置きに入浴できるよう、希望を聞き支援している。入浴時は利用者の話をゆっくり傾聴する時間となり、拒む場合も気持ちに添ったタイミングを図って対応している。重篤時は入浴に代えて清拭やベッド上でシャンプーをし、気持ち良く、負担の少ない保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のその日の体調に合わせて休んで頂いたり、ベースに合わせた離床・臥床の声掛けを行っている。心地よく休んで頂けるような明るさや温度の調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬管理表をチェックしお薬の理解に努めている。特変があれば医療と連携して薬の見直しを図ったり、服薬の際にはきちんと飲み込むまで声掛けし見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にとって馴染みの会話をしながら、好みや、楽しみごとを理解し、「出来ない」と決めつけ色々な事にチャレンジして頂き、喜びに繋げる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や、ご本人にその方の楽しみや嗜好を伺いながら、マスクや消毒の感染対策の元で支援につなげている。コロナ禍でも、春には車で花を見に行ったり、秋には近所へ散歩したり、プランターに水をあげたり季節に合わせた支援を行った。	感染対策を講じながら、状況を見極め、柔軟に対応している。ベンチでの日光浴やラジオ体操を行ったり、公園や周辺の散歩に出かけ、桜や紅葉を楽しんでいる。利用者の希望を受けとめ、万全を期しつつ、家族と共に馴染みの美容室に出掛ける支援を行ったこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の不安軽減にあわせて持っている方はいるが、現在は、使用される場面がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会制限がある為、ご本人からの要望以外にも、ご家族に電話する機会を作ったり、季節に合わせて写真付きのメッセージカードを送るなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられるよう、窓辺に花や落ち葉を飾ったり、レクリエーションで季節の飾り作りを取り入れている。ホーム内の温度や、窓から差す日差しの調整、物の配置などはご入居者様の目線で安全・安心であることを心がけ、掃除の際に出る生活音にも配慮しながら行っている。	リビングは明るく、落ち着いた生活空間になっている。生花やちぎり絵の作品、節分の鬼や月見飾り、祭り時期には手製の神輿が登場するなど、職員の得意分野を活かし、祭事をはじめ、季節を楽しむ設えをしている。気になる刺激や清掃・清潔に配慮し、新聞や雑誌のほか、趣味の編み物道具なども用意されており、利用者がその人らしく快適に過ごせる環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこで過ごされるかをご入居者様に尋ね、その方の意向を尊重している。又ゆっくりとくつろげるソファを配置し、団らん・会話を楽しんだり、ゆったりと思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前から使用されていた、馴染みの家具や装飾、大切な家族写真を居室に飾るなど、ご本人が大事にされているものを持参して頂き、居心地よく安心して過ごせるよう支援している。	居室が居心地よく安心して過ごせる空間となるよう、使い慣れた小タンスや鏡台、机などを持参してもらっている。入居前の寝室と同じようにベッドの向きを考え、動線を確保して家具を設置している。備え付けのクローゼットがあり、整理整頓が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床に物を置かない様にし、安全を考慮している。トイレや洗面所などは都度ご案内したり、分かり易い声掛けや、大きく書いた表札などを使用し、その方にとってできるだけ自立した生活が送れるよう工夫し支援をしている。		